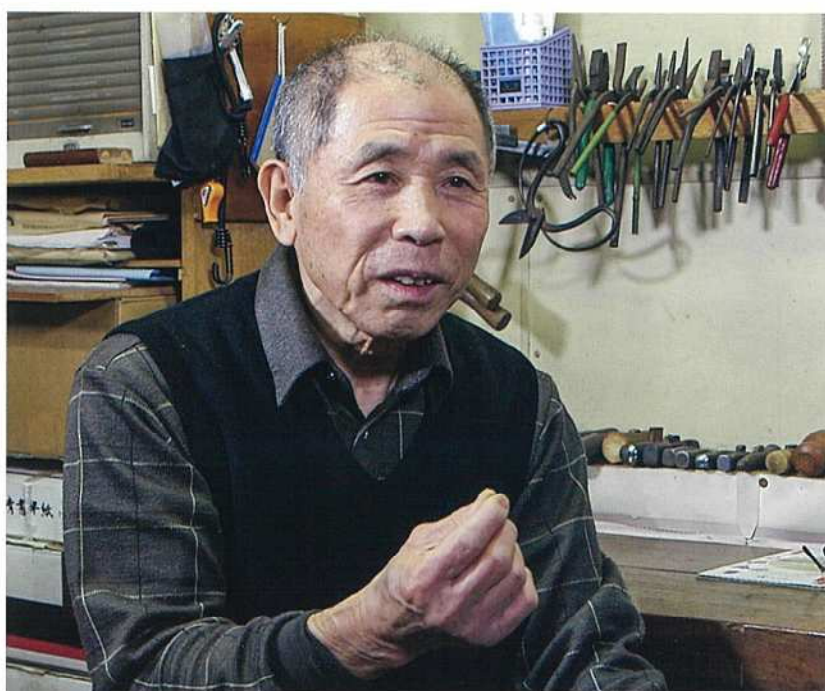


伝統に生きる

— あらかわの工芸技術 —



たん きん
鍛 金

すがわら えつお
菅原 悦夫

(平成29年度作品)

DVD

カラー・30分

プロフィール

住 所 荒川区町屋四丁目36番14号

昭和13年(1938)岩手県矢巾町^{やはば}生まれ

平成28年度、荒川区指定無形文化財保持者に認定される

菅原さんは、昭和32年(1957)に渋谷で鍛金の修業をしていた従兄を頼って上京。従兄が師事していた平田禪之丞を祖とする平田派の流れを汲む鍛金職人の小川友衛氏の元で、5年間修業し、鍛金の技術を修得した。同39年から足立区千住の神長製作所に勤務し、同47年に荒川七丁目^{なな}で独立。同54年に移転し現在地に至る。

鍛金は、金属板(銀、銅、真鍮)をなまししながら、叩いて成形して立体的な製品へと加工する技術。

菅原さんは、鍛金の技術で茶筒や急須、花器などの日用品を手掛けるほか、レストラン等を使う菊皿やスープポットなどの高級洋食器の製造にも携わってきた。また、多種にわたる見本や図案を元に指定された形状に忠実に作り上げる技術を有し、国際的なイベントのトロフィーを製作した経験もある。

企画・著作 荒川区・荒川区教育委員会

制作 株式会社 文化工房

[用具・工具・材料]

「用具・工具」

木槌、金槌、当て金、蜂の巣台、金床、コンパス、金切鋏、バーナー、ヤスリ

「材料」

金属板（銀板）



[工程]（銀製茶筒の場合）

(1) 金属板の切断

胴体・外ふた・中ふたを作るための銀板にコンパスで線を引き、金切鋏で円板状に切り取る。

(2) 絞り

切り取った銀板をバーナーでなまししながら、当て金を用いて木槌や金槌で叩いて板を延ばし、筒状に成形する作業を繰り返す。叩いて延ばすうちに縁が重なってしわができてくるので、このしわを絞って形を作っていく。絞り加工の仕上げに鉄製の茶筒の型を胴体の内側に入れて木槌で絞り、形を整える。外ふたも同様に絞って成形する。



(3) 打ち出し

表面に模様を打ち出す。金槌で槌目模様を刻みこんでいく。



(4) ゲジョウを溶接する

茶筒胴体と外ふたが接するゲジョウと呼ばれる部分を錫で溶接して固定する。

(5) 中ふたのつまみを作る

金属を丸めて絞りながらつまみになる部分を成形する。ヤスリで磨いて整えた後、中ふたの中央に銀ロウで溶接する。



(6) 仕上げ

表面を磨く。

「伝統に生きる—あらかわの工芸技術—」は、江戸から受け継がれてきた無形文化財である伝統工芸技術を保存継承し、広く普及することを目的に、荒川区指定無形文化財保持者の技術を記録した記録映像です。DVDは、荒川区の図書館で貸し出していますのでご利用下さい。

問い合わせ先

■ 内容等に関すること

荒川区立荒川ふるさと文化館・・・3807-9234

● 荒川区ホームページ内「あらかわまなびプラザ」あらかわの伝統工芸
<http://www.city.arakawa.tokyo.jp/arapura/dento/index.html>

■ DVD貸し出しに関すること

ゆいの森あらかわ・・・3891-4349

町屋図書館・・・3892-9821

尾久図書館・・・3800-5821

汐入図書サービスステーション・・・3807-8130

冠新道図書サービスステーション・・・3800-3321

● 荒川区立図書館ホームページ <http://www.library.city.arakawa.tokyo.jp/>

南千住図書館・・・3807-9221

日暮里図書館・・・3803-1645